

読書の家から



新刊案内

■あぶた読書の家

△一般▽▽旅に出たくなる日本地図(帝国書院地図部門)▽すぐ編めて、すぐ使える指なし手袋とリストウォーマー(河出書房新社編)▽ゆび織で作るマフラー&ショール(箕輪直子)▽マッサンとリタジャパニーズ・ウイスキーの誕生(和気洋子訳)▽流浪の歌人 柳原白蓮(馬場あき子/林真理子/東直子/宮崎路彦)▽冷たい太陽(鯨統一郎)▽平凡(角田光代)▽失踪都市(笹本稜平)▽東京湾臨海署安積班「捜査組曲」(今野敏)▽物書き同心居眠り紋蔵

「わけあり師匠事の顛末」(佐藤雅美)▽春遠からじ(北原亞以子)▽口入れ屋おふく「昨日みた夢」(宇江佐真理)▽それは秘密の(乃南アサ)▽大晩年 老いも病も笑い飛ばす!(永六輔)△児童書▽気をつけようSNS(全3巻)(小寺信良)▽本屋さん(全3巻)(小寺信良)▽本屋さん(全3巻)(小寺信良)▽本屋さん(全3巻)(小寺信良)▽本屋さん(全3巻)(小寺信良)▽本屋さん(全3巻)(小寺信良)

△一般▽▽分水嶺(笹本稜平)▽ダブルフォルト(真保裕二)△一般▽▽分水嶺(笹本稜平)▽ダブルフォルト(真保裕二)△一般▽▽分水嶺(笹本稜平)▽ダブルフォルト(真保裕二)

■みずうみ読書の家

△一般▽▽分水嶺(笹本稜平)▽ダブルフォルト(真保裕二)

今月の1冊



おはなし絵本
ゆきがやんだら

作/酒井駒子

しんしんと大雪が降り積もる静かな一日を、親子の姿を通じて、優しく美しく描いた1冊。

子どものころに感じた、雪が降ったときのドキドキやワクワクを思い出させてくれる。



▽櫛換道守(木内昇)▽夜また夜の深い夜(桐野夏生)▽ハイウェイとゴミ溜め(ジエノ・デイアス)▽青い約束(田村優之)▽東京自叙伝(奥泉光)▽停電の夜に(ジュンパ・ラヒリ)▽キャロリング(有川浩)▽鳥たち(よしもとばなな)▽自覚(今野敏)▽冬を待つ城(安部龍太郎)▽窓から逃げた100歳の老人(ヨナス・ヨナソン)

洞爺総合センター図書室

△一般▽▽137億年の物語…宇宙が始まってから今日までの全歴史(クリストファー・ロイド)▽故響・洞爺湖の四季2008 北海道洞爺湖サミット開催記念写真集(綿引幸造)▽新世界より(貴志祐介)▽記憶の果て(浦賀和宏)▽アラビアの夜の種族(古川日出男)▽赤い指(東野圭吾)

●開館時間

午前10時より午後4時20分まで

●1月休館日

12日・15日・22日・29日・2月5日

(毎週木曜日・祝祭日休館)

あぶた読書の家 ☎76・2100

みずうみ読書の家 ☎75・4702

わたしのうた

短歌

【あぶた短歌会】

十二月定例会

何事も心寄せにし過ぎゆきを

裡に抱きて年逝かんとす

久びさの美容室に行きたれば

冬の優鬱消えてゆきたり

足もとに吾を恋ふごとからみつき

落葉は音立て冬をよびこむ

手をあはせ感謝せずにはおれぬほど

尽くしてくれる息子の厚意

年明けに夫を送りし友とわれ

茶を点てながら過す年の瀬

俳句

【あぶた俳句会】

十二月定例会

千し大根 くの字に曲がる までを待つ

晩学や くしゃみをしほに 消灯す

玄関を 辞してくしゃみの 置土産

くさめかな 夜更の湯宿 廊流し

石投げて 冬の海をば 動かしぬ

眠られぬ 夜半に一献 雪をんな

帽子とび 顔も歪んで 大嚏



大西 芳子

北島 加代

太田 智

山本 孝

元田 フジ子

千葉 征子

矢野 知子

那須 怜子

菅原 敏子

三瓶 修

佐藤 美風

小笠原 勇